

大学生を捕獲せよ

「親父維新」

平成27年度 政策研究共同事業
人口減少時代のまちづくり

チーム
キャンパス★ハンターズ

チーム
子ども増やし隊



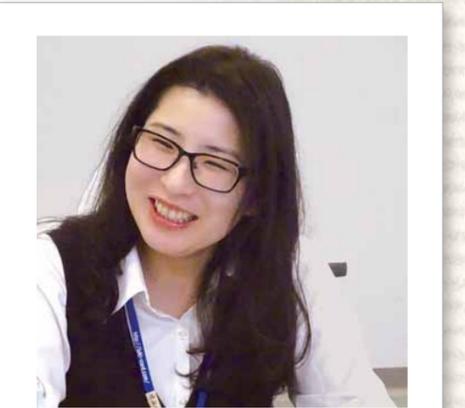
高知市 都市建設総務課
松倉 彩香



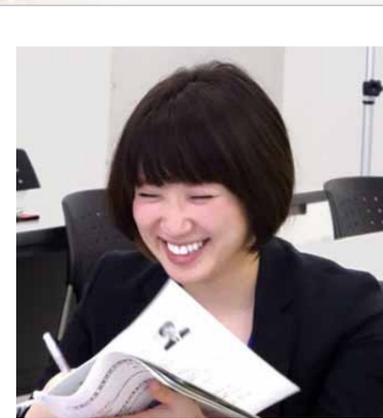
土佐市 健康づくり課
武森 智也



高知市 地域コミュニティ推進課
伊藤 雅彦



東洋町 総務課
吉中 悠



中土佐町 教育委員会
吉岡 彩乃



梶原町 企画財政課
堀 情二



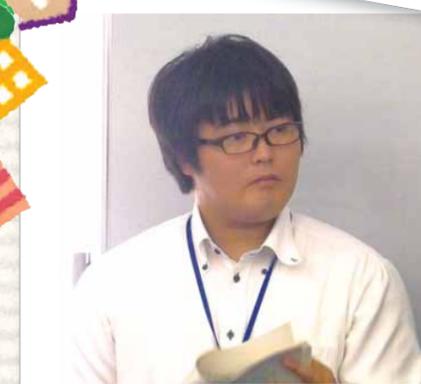
安芸市 企画調整課
野崎 一生



佐川町 総務課
三代木 良太



政策指導
牧瀬 稔 講師



越知町 総務課
伊藤 勇太



こちこうち人づくり広域連合

〒780-0870 高知市本町5丁目2-3 自治会館2階
TEL 088-873-0333 FAX 088-872-7716
e-mailアドレス : kouiki@kochi-hitozukuri.or.jp URL : http://www.kochi-hitozukuri.or.jp/

日本の人口は、未婚化や晩婚化などによる出生数の減少により、人口減少の一途を辿っています。我が高知県においても、例外ではなく昭和60年の839,784人をピークに現在約13%減の731,338人となっている状況です(高知県統計課より)。その状況を打破するべく、平成27年度政策研究共同事業において、我々は「自然増」と「社会増」の両方の視点から、人口減少時代に対するまちづくりの政策を提案します。

自然増:男性の育児参加による出生数増加

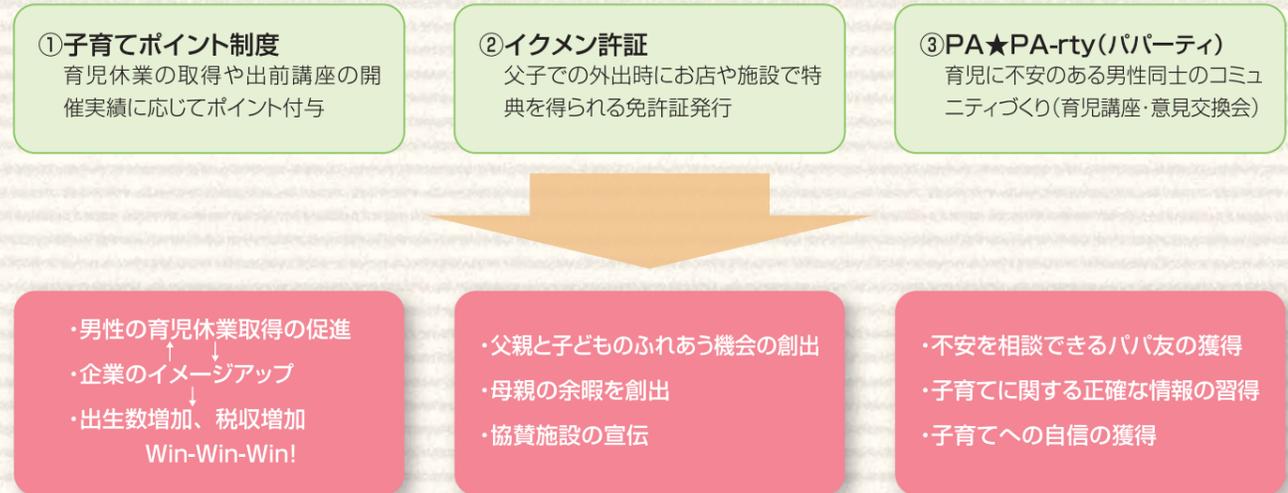
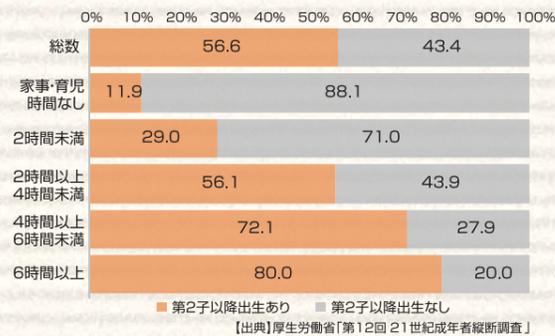
【現状・課題】

高知県の平成27年度県民意識調査によると、出生率の低下の背景は大きく2つあり、経済的な理由と心理的な理由です。我々が注目したのは、心理的な理由の解消です。厚生労働省が子どものいる夫婦に対して、夫の休日の家事・育児時間と第2子の出生の状況について調査したところ、夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高くなるという結果となっています。つまり、「**男性の育児参加が人口増加の夜明け**」であると考えました。男性の育児参加を今より促進することで、心理的な要因を排除し、出生数の増加につなげます。

【事業提案】

男性の育児参加を促進するため、企業における育児環境の改善、育児参加の機会の創出、男性の育児不安の解消、この3つに我々は取り組みます。以下の①「子育てポイント制度」により、男性の働き方に変化をもたらし、②「イクメン許証」により、積極的に男性が育児に関わるきっかけを作り、③「PA★PA-rtty(パパーティ)」により、育児をする中でうまれる不安を解消します。

図① 夫の休日の家事・育児時間別に見たこの11年間の第2子以降の出生の状況



【効果】

夫の育児への意識が変わり、妻の心理的な負担が軽くなれば…

子どもを産むことへの意識が変わる!!

高知市の場合
この政策のターゲットとなる2,476世帯で、
夫の休日の育児時間が6時間以上になると

580人の出生増!!



これが我々の「親父維新」だ!!

※1) 高知市における20代、30代の妻がいる結婚世帯のうち、理想と現実の子どもの数のギャップ要因に「育児の心理的・肉体的負担」をあげた世帯数(子どもを持つ意志のない世帯を除く)

※2) 2,476世帯×図① 6時間以上の第2子以降出生あり80%(1,981人)÷2,476世帯×図① 総数の第2子以降出生あり56.6%(1,401人) = 580人

社会増:大学生転入者を増やすことによるにぎわいの創出

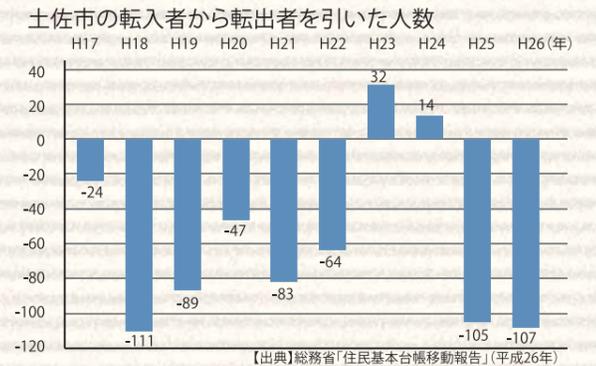
【現状・課題】

我々は、この政策研究提案のモデル市として「土佐市」を選びました。土佐市では、転出者が転入者を上回る「転出超過」状態が続いています。平成26年はその数が107人となりました。その内の半数以上が15~24歳の若者です。若年層の流出は、地域のにぎわいの喪失や、地域産業の衰退につながります。

我々は、大学生の転入者を増やすことで、土佐市の若年層の人口割合を増加させ、地域のにぎわいを生み出すことができるのではないかと考えました。

【事業提案】

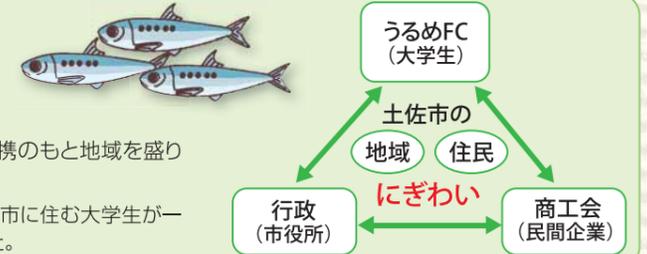
大学生の転入者を増やし土佐市のにぎわいを創出するためには、「住んでもらうきっかけ」と「地域との関係づくり」の2つの点が重要であると考えました。この2つの相乗効果を期待した包括的な取り組み「うるめFC(ファンクラブ)の設立」を提案します。



うるめFC(ファンクラブ)設立

●うるめFCとは

土佐市に住む大学生が加入できる団体。
土佐市に住む大学生同士で仲良くなり、行政、商工会等との連携のもと地域を盛り上げることを目的とします。
※土佐市の特産の「うるめ」は群れをなして行動することから土佐市に住む大学生が一体となって活動するイメージを重ねて「うるめFC」と名付けました。

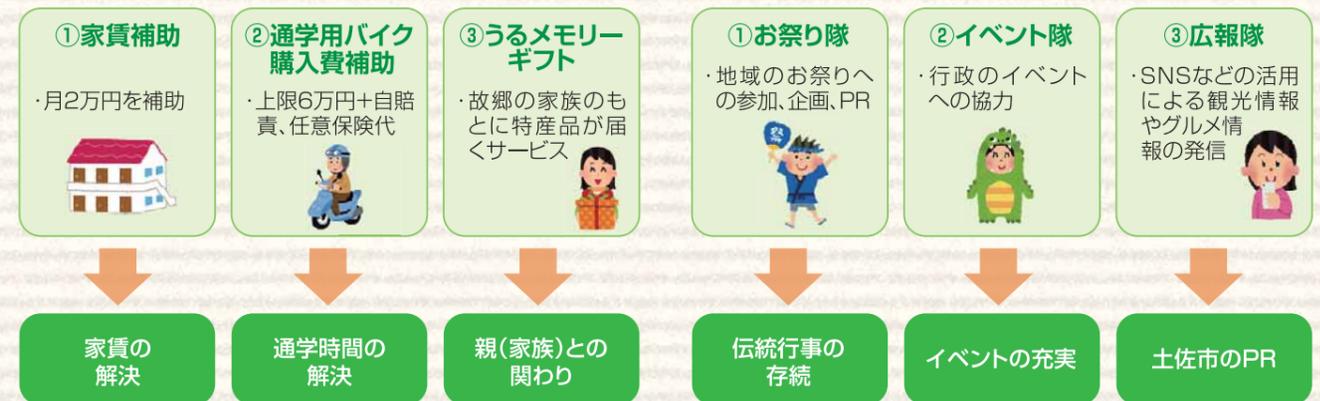


1. うるめFC加入特典

●住んでもらうきっかけ提案
「大学生に選ばれる土佐市」を目指し、大学生の居住地として選択してもらえる整備を提案します。

2. うるめハウス

●地域と学生の良好な関係づくり
大学生が、地域の中で活動するための学生版シェアオフィス「うるめハウス」を整備し、人の輪を広げます。



【効果】

4年間で58人の大学生の転入、19,087万円の経済効果 大学生が土佐市のにぎわいをもたらします!!

※1) この政策の利用に適した賃貸住宅の受け入れ可能見込人数

※2) 年間個人消費支出1,403,520円(【出典】全国大学生生活連合会「第50回学生生活実態調査」)×延べ136人として試算